

宿題

小川未明

青空文庫

戸田は、お父さんがなくて、母親と妹と三人で、さびしく暮らしているときいていたので、賢吉は、つねに同情していました。それで、自分の読んじまつた雑誌を、君見るならあげよう。」と、与えたこともありまし

た。学校へきても、戸田のようすは、なんとなくさびしうだつた。親しい友だちもなく、いつも独りでいました。運動場へ出ても、賢吉のほうから、話をしなければ、だまつているというふうでありました。遠足の日が、近づいたときでした。みんなは、集まれば、楽しそうに、その話をしていました。

「海へいったら、かにかまえてこよう。」と、いうものもあれば、

「僕は、きれいな石をたくさん拾ってくるのだ。」と、いうものもあります。

「針と糸を持って行って、魚を釣ろうかな。」

「ばか、そんなことできるもんか、生きているたこを売つていうから買つたらいいよ。」と、いったものもあります。

そんなときでも、戸田は、黙つてみんなの話をきいていました。

「君もいくだろう。」と、賢吉がいうと、戸田は、口のあたりに寂しい笑いをたたえて、

うなずきました。

遠足の前の晩でした。賢吉はお母さんにつれられて、明日持つていく、お菓子を買いに出かけました。

「キャラメルは、二箱あれば、いいでしょう。」と、お菓子屋で、お母さんが、おつしやると、

「三箱、買ってよ。」と、賢吉は、いいました。

「まあ、そんなに食べられて？」と、お母さんは、お笑いになりました。

こんどは、果物屋の前に来て、

「りんごは、いくつ？」と、お母さんが、おつしやると、

「四つ買ってよ。」と、賢吉はいいました。

「そんなに持つていくの？」

お母さんは、驚きなされたけれど、賢吉のいうようにしてくださいました。そして、

お家へ帰って、お弁当にお寿司を、こしらえてくださったのです。

「お母さん、たくさん入れてよ。僕、お腹がすくのだから。」と、賢吉は、お頼みしました。

「おまえは、どうしたんですか、いくら遠足でも、そんなに食べられるはずがないでしょう。」と、お母さんは、賢吉の顔をごろんになりました。

賢吉は、うそをいっては悪いと思つて、かわいそうなお友だちに分けてやるのだと答えると、お母さんは、喜んで賢吉のいうようにしてくださいました。しかし、戸田は、ついに遠足にこなかったのです。

ある日のことでした。算術の時間に、先生は、戸田が、宿題をしてこなかったので、たいそうおしかりになりました。

「おまえには、新しい問題をやらぬい。」と、いつて宿題の刷つてある紙をお渡しになりませんでした。そのうちに、暑中休暇となりました。ある暑い日の午後のこと、賢吉の父親は、外から汗をふきながらもどりました。

「いま、彼方の田圃道を歩いてくると、ひきがえるが、かまきりをのもうとしていた。」と、話されました。

「それから、どうした？」と、賢吉は、目をまるくして、ききました。

「かまきりも大きいから、かまを振り上げて、横目で、じっとひきがえるを見ていたぞ。」と、お父さんは、答えました。

「お父さんは、なんで助けてやらなかったの。」

「かまきりだって、小さな虫を食べて、生きているのだから。」

「だって、かわいそうじゃないか。」と、賢吉は、お父さんに、怒りました。そして、その場所をきくと、すぐ自転車に飛び乗って走りまわりました。

雲のない空に、日が輝いて、草の葉先がちかちかと光っています。彼は、すぐ川のところへ出ました。お父さんから聞いた場所を、よく探しても、かまきりもいなければ、ひきかえるも見つかりませんでした。

「どうしたのだろうな、もう食べて、どこかへ行ってしまったのだろうか。」と、草を踏み分けると、いろいろのほかの虫が飛び出しました。賢吉は、はじめて自分のめめしかつたのがわかったような気がしたのです。

「なにしているの?」

だれか声をかけたので、見ると、夕刊を配達している戸田でした。戸田の顔は、汗と元気に光って、いきいきとしていました。賢吉は、なつかしげに彼のそばへ寄ると、「僕、宿題でわからないところがあるから、聞きにいいですか?」と、戸田が、いいました。

「いいとも、先生せんせいは、君きみの働はたらいているのを知らしないのだよ。」

賢けん吉きちは、家うちへ帰かえつてお父とうさんにそのことを話はなすと、

「その子このほうが、おまえよりよほど強つよいのだぞ。」と、お父とうさんは、戸田とだをおほめにな
りました。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 12」講談社

1977（昭和52）年10月10日第1刷発行

1982（昭和57）年9月10日第5刷発行

底本の親本：「小学四年生」

1938（昭和13）年8月号

初出：「小学四年生」

1938（昭和13）年8月号

※表題は底本では、「宿題《しゆくだい》」となっています。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：酒井裕二

2017年5月20日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られ

ました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

宿題

小川未明

2020年 7月18日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>